



はじめに

地域活動報告会は今回で第6回目です。COC推進委員会では、具体的な実施計画を平成28年10月24日に決定しました。その後、教授会への報告、委員会での審議を重ねました。また、今回は初の取り組みとなる2部制の形を取り、第2部をまちラボで遅い時間に開催しました。また第4回に引き続き、学内公募を実施し、学生の参画を得ました。

以上の過程を経て、学生と教職員による「第6回地域活動報告会実行委員会」を組織し、実施に至ったものです。

主催：稚内北星学園大学

会場：新館1301教室（第1部）／まちなかメディアラボ（第2部）

日時：平成29年2月14日（火）

14時30分～16時（第1部）／19時30分～20時30分（第2部）

●開催の目的

本年度の本学COC事業の成果が地域内外の人々と共有される【H28COC事業調査(21)記載の成果目標より】

●発表形式

口頭発表とし、第1部は教職員を中心に地域志向教育研究経費に採択された研究の成果報告、第2部は学生が中心市街地に関する事業・研究報告を行いました。

●実行委員

越後武蔵・梶浦里沙・勝又万由子・佐藤佑介・中島拓人・保坂崇秀・水本一哉・三石美保・山上絢也・山岸 純樹・吉岡大輔・黒木宏一・石黒志津・鏡山 樹・佐藤ゆかり・中川圭太・三浦 猛・向 光宏・米津直希(実行委員長)

第1部 発表要旨

<第1報告：地域教育分野>

○報告者

安藤 友晴（情報メディア学部 教授）

○報告題名

稚内市内におけるICT利用教育の実際と支援

○報告内容要旨

稚内北星学園大学は、稚内市内のICT利用教育を支援するため、小中学校の教員を対象とした講習会を2014年度から継続して実施してきました。また、2015年度には小中学校の教員を対象としたICT利用教育に関する質問紙調査を実施しています。本報告では、これらの実践について詳しく報告し、得られた知見をご紹介します。

<第2報告：地域観光分野>

○報告者

黒木 宏一(情報メディア学部 講師)

高 澍(特任助教 学習コンシェルジュ)

○報告題名

地域課題の解決に大学のシーズを活かすこと—ノシャップ寒流水族館での取り組みの事例

○報告内容要旨

地域志向研究経費に採択された黒木らのノシャップ寒流水族館をフィールドとした3つの研究は、本学の持つシー

ズを生かすこと、教育活動と接近することを通じて行い、多言語化という一つの課題を解決しようとしています。これについて、研究の背景、学内、学外連携を通じた推進、調査の実施、成果の一端を紹介しました。

<第3報告：地域振興研究>

○報告者

侘美 俊輔(情報メディア学部 准教授)

○報告題名

連続ドラマ「エゾカンゾウの咲くまちへ」制作による教育効果の検証

○報告内容要旨

本学では、(株)川島旅館（豊富町）からの依頼により、連続ドラマ「エゾカンゾウの咲くまちへ」を制作しました。現在YouTube上で公開中の連続ドラマは、本学の2年生を中心に17名の学生と牧野先生（本学非常勤講師）を中心に制作いたしました。この連続ドラマ制作は、学生たちにどのような学び、意識変容をもたらしたのでしょうか。本報告では、連続ドラマの制作過程を俯瞰的に参与観察していた報告者（侘美）の視点からご報告いたしました。

<http://movie.kawashimaryokan.co.jp/>

第2部 発表要旨

<第1報告：まちなか振興分野>

○報告者

藤澤 翔太
武田 大貴
濱田 里実(以上、情報メディア学部 4年)

○報告題名

稚内中央商店街動画制作における学生の学び

○報告内容要旨

報告者たちは、2015年度に若原・侘美ゼミのゼミ生5名と牧野先生(本学非常勤講師)を中心に、稚内中央商店街のPR動画を5本制作いたしました。本報告では、この制作過程において、報告者たちが学んだこと、感じたことなどをそれぞれの立場からご報告いたしました。また、地域活動報告会の発表時に、ノーザンノースさん、大王本店さんの動画を初公開いたしました。URL https://www.youtube.com/watch?v=ly_wHWy9ZtU

<第2報告：まちなか振興分野>

○報告者

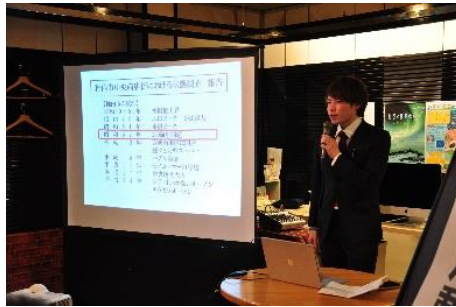
梶浦 里沙 勝又 万由子 佐藤 佑介 中島 拓人
三石 美保 山岸 純樹 吉岡 大輔
(以上、情報メディア学部 2年)

○報告題名

稚内市中央商店街における状態調査(実習)

○報告内容要旨

講義「社会教育課題研究」では学生の実習として、稚内中央商店街の歴史と現状を明らかにし、今後の方向性を探るための調査を行いました。前期には資料調査を行い、後期には商店街の皆さんにインタビュー調査にご協力いただきました。この調査をふまえ、本報告では特に商店街の皆さんの“意識”に焦点を当てた分析を試みました。稚内中央商店街のこれからに向けてどんな取り組みが必要なのか、報告者による考察をご報告しました。



出席者へのアンケートから

当日第1部に参加された60名のうち31名(51.7%)から、第2部に参加された50名のうち15名(30%)から回答を得ました。

第1部の参加者からは、「活動を具体的に説明していただき、大変参考になりました」「地域での密着した活動について今後も期待しています」などのお声をいただきました。一方で「もっと市民に知らせてほしい」との課題もいただきました。第2部の参加者からは「稚内の歴史背景を良く調べてあり感心した」「学生の取り組みが良かった」などの声をいただきました。一方で、もっと学生の発表の場を設けてほしい、もっと若い人の声を聞きたいとのご意見をいただきました。

「報告会に来てよかったですか」との問いについて「大変良かった」の回答が第1部では46.7%、第2部では35.5%でした。

総括

今回は初の試みとなる2部制をとりました。第1部のみで見れば来場者は減少傾向にありますが、トータルの来場者ではのべ110名と、大変多くの方々にご来場いただきました。

また、2部に分けたことにより、学生と教職員、双方の取り組みについてご報告することができました。双方にご来場いただいた方もいらっしゃいました。今回の状況も踏まえて、本学の取り組みについて今まで以上に知っていただけるよう、今後の報告会についても工夫をしていきたいと思います。

本学COC事業も来年度で4年目となり、事業期間終了まで残すところあと2年となりました。事業期間終了後も稚内・宗谷地域の皆様と協力しながら取り組みを進めていくため、具体的な展望を描きながら、残りの期間の活動に取り組む必要があると感じています。